

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)T-BOX-1新築工事	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市戸畑区牧山新町72-2の一部	構造	S造
用途地域	準工業地域、工業地域、防火指定なし	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、飲食店、集会所、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年12月 予定	評価の実施日	2015年12月3日
敷地面積	3,303 m ²	作成者	(株)高橋環境建築設計
建築面積	1,853 m ²	確認日	2015年12月3日
延床面積	2,348 m ²	確認者	(株)高橋環境建築設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	107%
③上記+②以外の	107%
④上記+	107%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

音環境	2.3
温熱環境	2.2
光・視環境	2.5
空気質環境	3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

機能性	2.2
耐用性	3.0
対応性	3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境	2.0
まちなみ	2.0
地域性	2.5

LR のスコア = 2.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 1.9

建物外皮の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	1.0
効率的	2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

水資源	3.0
非再生材料の	2.6
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

地球温暖化	2.4
地域環境	2.8
周辺環境	2.7

3 設計上の配慮事項	
総合	工業地域に建つ複合施設として、建築物の環境品質を高めると同時に、周辺地域への環境負荷を低くするよう計画している。
その他	特になし。
Q1 室内環境	①ほぼ全体的にF☆☆☆☆を使用している。
Q2 サービス性能	①各用途に応じて余裕のある天井高さを確保している。 ②内壁ビニルクロスなど耐久年数=20年 ③給湯、給湯、排水の管材料としてVPを使用している。 ④各用途に応じて余裕のある階高を確保している。 ⑤各用途に応じて余裕のある壁長さ比率を確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	①外構緑化指数=41.03% ②空地率=43.15%、中高木ピロティ等の水平投影面積率=18.38% ③緑被率、水被率、中高木の水平投影面積率=23.84%
LR1 エネルギー	①BPI _m =0.93 ②BEI _m =1.09
LR2 資源・マテリアル	①LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法としている。
LR3 敷地外環境	①卓越風向に対する建築物の見附面積率=45.2% ②隣棟間隔指標RW=1.63 ③地表面対策面積率=42.24%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される